

2. 見附市の現状

(1) 見附市の概況

1) 見附市の地勢

新潟県のちょうど中央に位置する本市は、東京都心から約 300 キロメートル、新潟市中心部から約 50 キロメートルのところに位置しています。北陸自動車道中之島見附 IC や国道 8 号及び上越新幹線といった高速交通体系に容易にアクセスできる恵まれた環境にあります。

面積は、77.91 平方キロメートル、周囲約 70 キロメートル、東西に 11.5 キロメートル、南北に 14.7 キロメートルの菱形をしており、標高は、海拔最高 300 メートル、海拔最低 10 メートルとなっています。

地勢は、信濃川水系の刈谷田川が市を南北に分けて流れ、豊かな水と清涼な空気に恵まれています。豊かな自然に囲まれて、県内でも有数の田園地帯を形成し、春の芽吹き、夏の深緑、秋の紅葉と黄金色の稲穂、そして冬の銀世界、四季折々の風情を味わうことができます。

また、本市は、肥沃な土地を生かした農業と、繊維産業を基幹産業として発展してきました。繊維の歴史は古く 1800 年頃から始まり、幕末には見附結城が全国的にも知られるようになりました。以後、染色、織物、ニットなどの総合繊維産地として発展してきました。近年は、新潟県の中心に位置しているという立地条件や交通の利便性を生かし、安定した経済基盤の構築と、多様な業種の共存によるバランスのとれた産業構造を目指して、県営中部産業団地（見附テクノ・ガーデンシティ）への企業誘致を進めたことにより、多種多様な産業が集積する産業都市として変革しています。



図一見附市の現状

出典：国土数値情報「土地利用細分メッシュ（令和3年度）」

面積	: 77.91 km ²	都市計画区域	: 60.0 km ²
広ぼう	: 東西 11.5km、南北 14.7km	市街化区域	: 8.5 km ²
周囲	: 71.7km	市街化調整区域	: 51.5 km ²
海拔最高	: 300m		
人口	: 39,237 人（令和2年国勢調査）		
世帯数	: 14,136 世帯（令和2年国勢調査）		

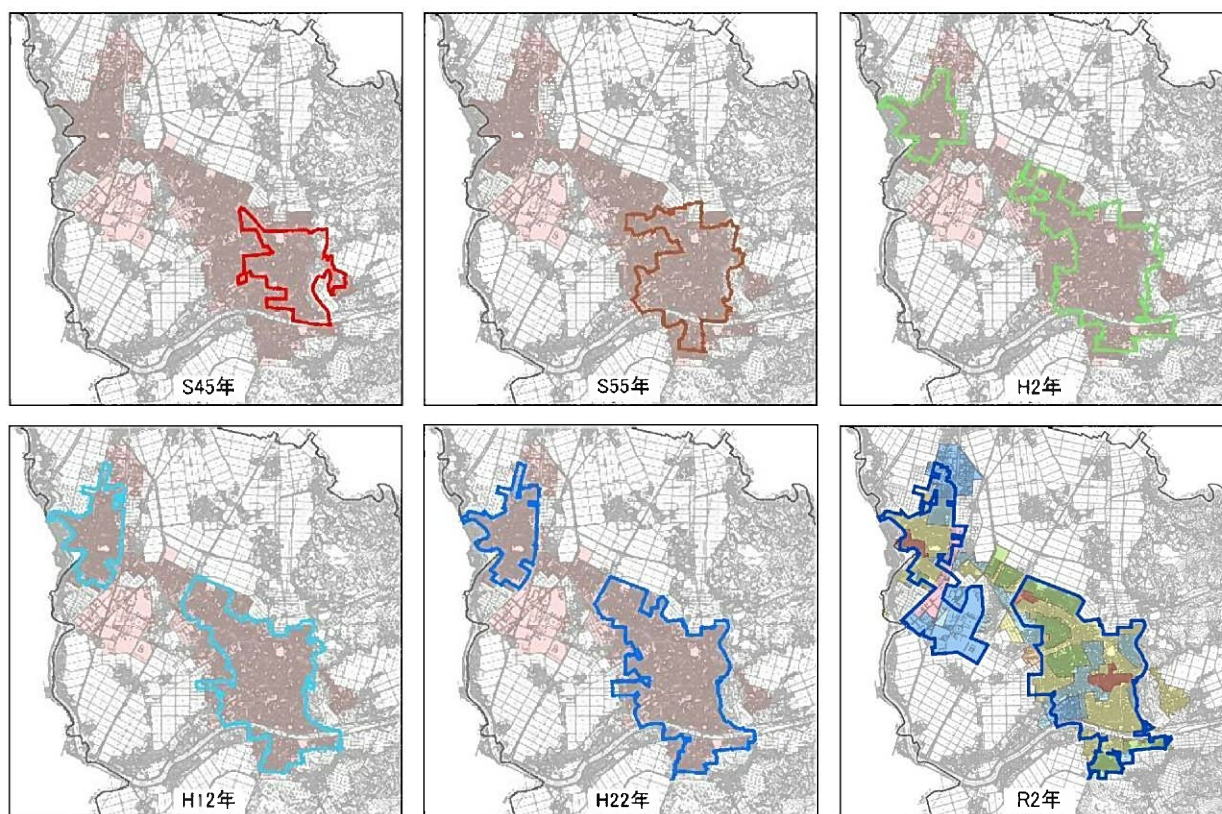
2) 市街地の遍歴

本市では、国指定史跡・耳取遺跡が代表するように、約1万数千年前、縄文・弥生の昔から、人々の営みが確認されています。

明治22(1889)年の市町村制施行とともに見附町、今町のほか、葛巻、庄川、新潟、北谷、上北谷の各村が誕生しました。昭和9(1934)年以降町村合併を経て、昭和29(1954)年3月に人口32,162人で市制を施行し、その後、昭和31(1956)年今町と合併し、見附地区と今町地区の二つの市街地が存在する都市として発展してきました。

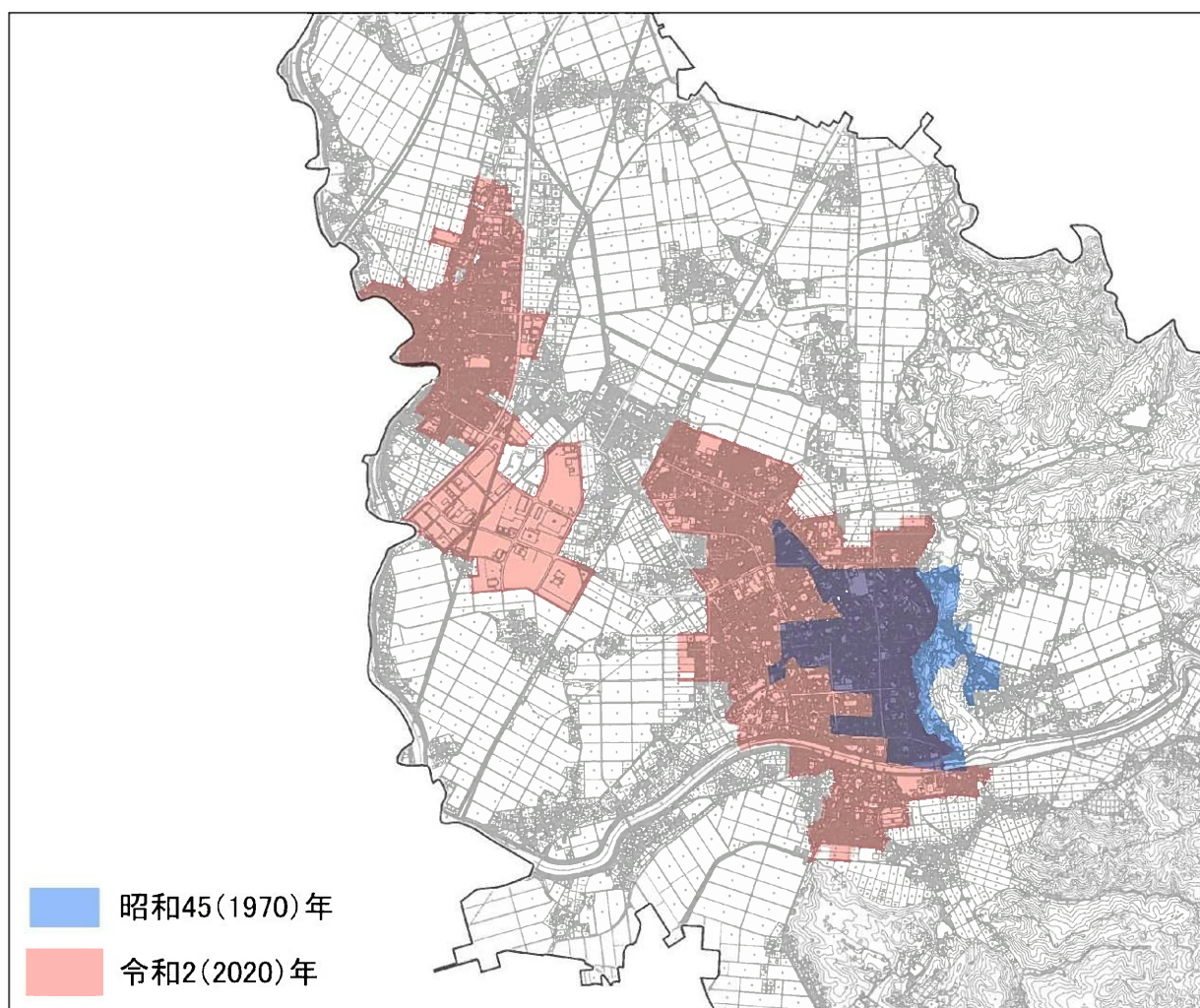
見附地区のDID(人口集中地区)は、昭和45(1970)年以降、徐々に見附駅方面へ広がっていきました。今町地区では平成2(1990)年にDIDが指定され、令和2(2020)年には上越新幹線より東側の県営中部産業団地周辺まで広がっています。

令和2(2020)年は昭和45(1970)年と比較し、市全域の人口が減少しているのに対しDIDは約3.9倍に拡大しており、DID内の人口密度は低下しています。



図一DIDの変遷(昭和45年～令和2年)

出典：国勢調査

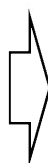


図一人口集中地区（昭和 45 年, 令和 2 年）

出典：国勢調査

表一DID の人口と面積（昭和 45 年、令和 2 年）

昭和 45 年	人口		面積	
	(人)	(%)	(ha)	(%)
DID	14,811	36.07%	170	2.18%
市全域	41,057	100%	7,810	100%



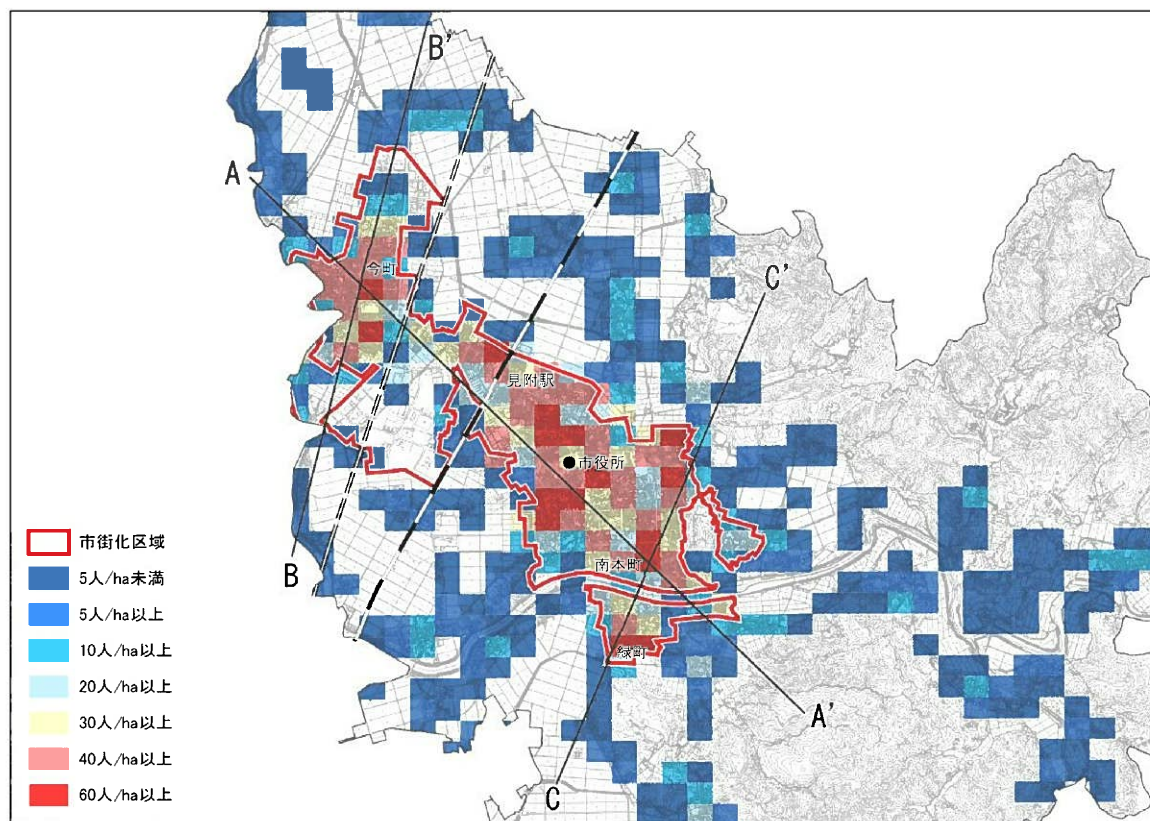
令和 2 年	人口		面積	
	(人)	(%)	(ha)	(%)
DID	24,852	63.34%	651	8.36%
市全域	39,237	100%	7,791	100%

出典：国勢調査

(2) 都市の現状

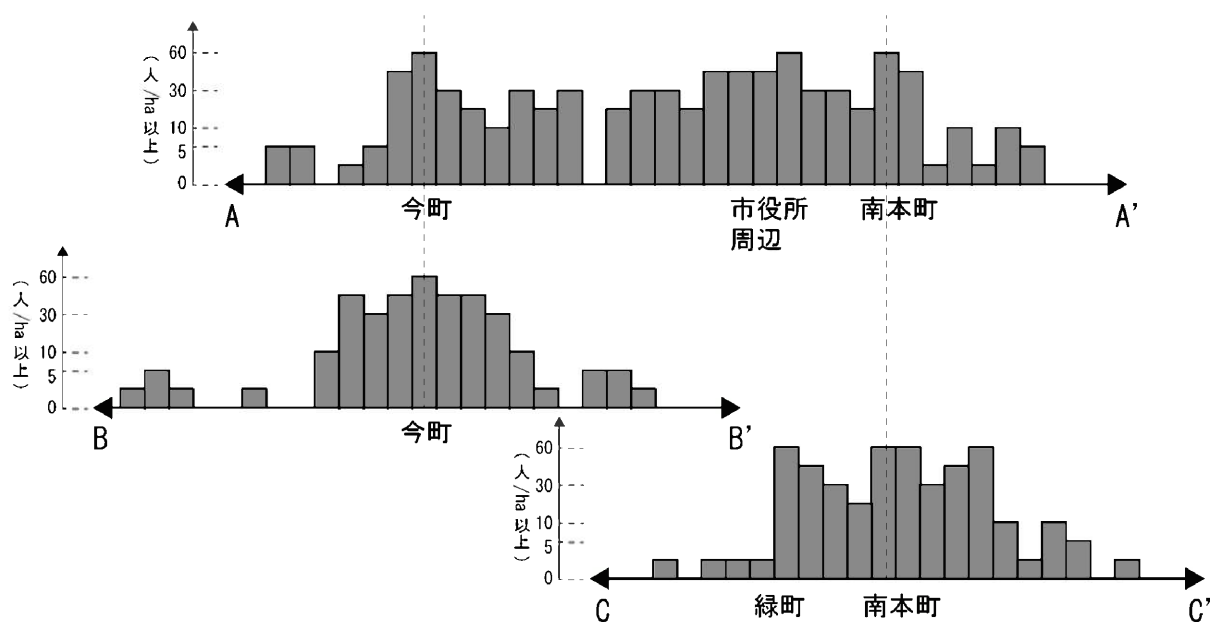
1) 居住密度の現況

令和 2（2020）年の人口は、市街化区域内に集中し、特に上越新幹線より西側の今町周辺や、見附駅周辺、市役所周辺や刈谷田川南側の緑町周辺等が高い数値を示しています。



図一 現況居住密度

出典：R2 国勢調査



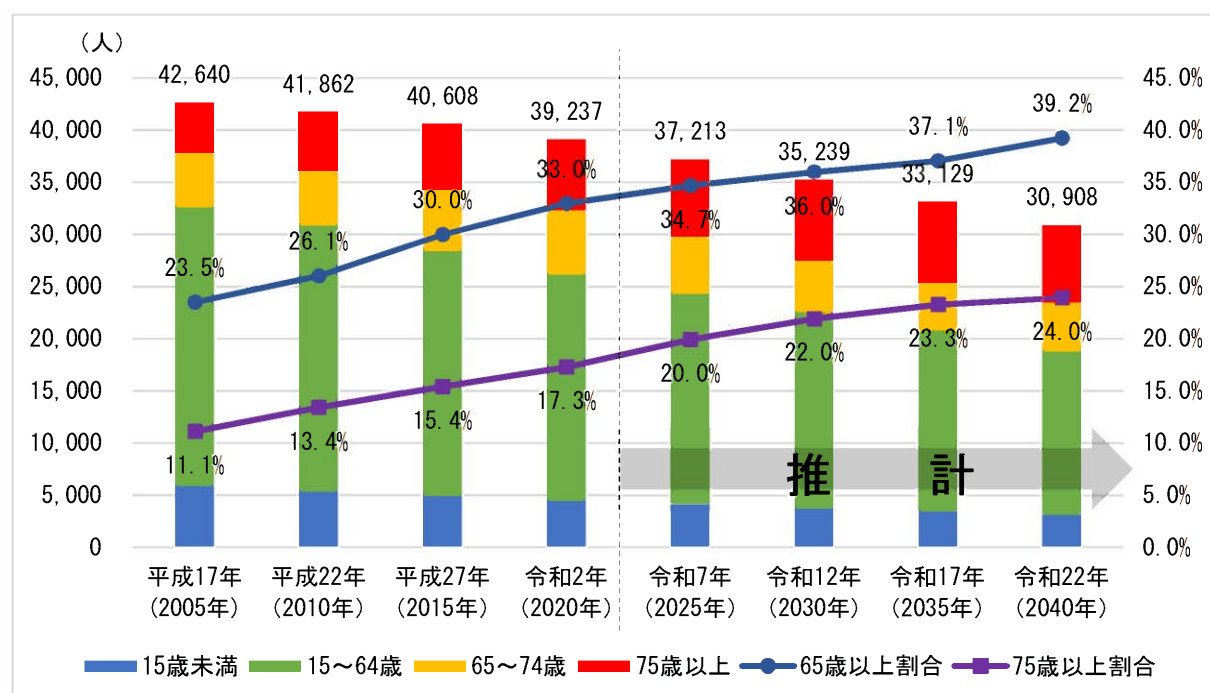
図一 居住密度断面

2) 将来人口と居住密度の予測

国立社会保障・人口問題研究所によると、令和 2（2020）年時点で 39,237 人である本市の人口は、目標年である令和 22（2040）年には、30,908 人となり、約 21%減少することが予測されています。高齢化率においては、令和 2 年時点で 33.0%となっており、令和 22（2040）年には 39.2%まで増加することが予測されています。

令和 6 年度における市街化区域は 850ha で市域の 10.9%を占めており、人口の 76.7%が市街化区域内に居住しています。

今後、人口減少が進行することで、市街化区域内の人口密度が大きく低下することが予測されます。



図一 将来人口と高齢化の将来予測

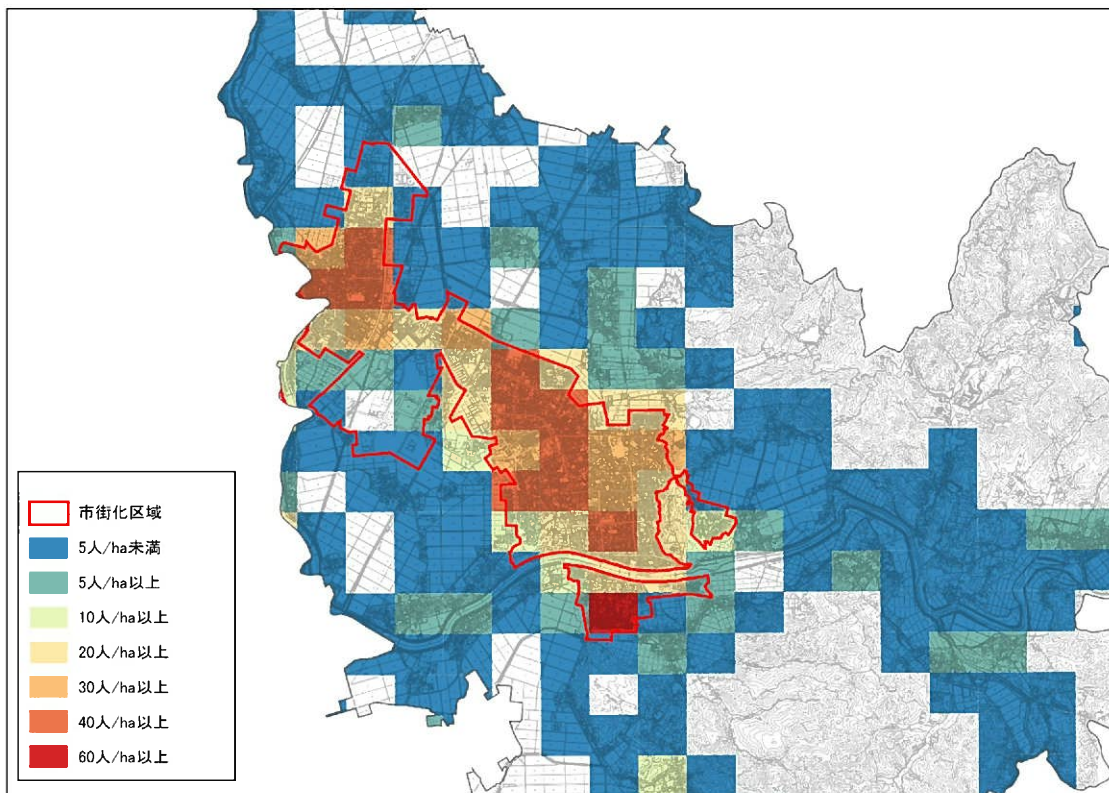
出典：国勢調査（H17～R2）、国立社会保障・人口問題研究所（R7～R22）

表一 区域区分別の人口・面積

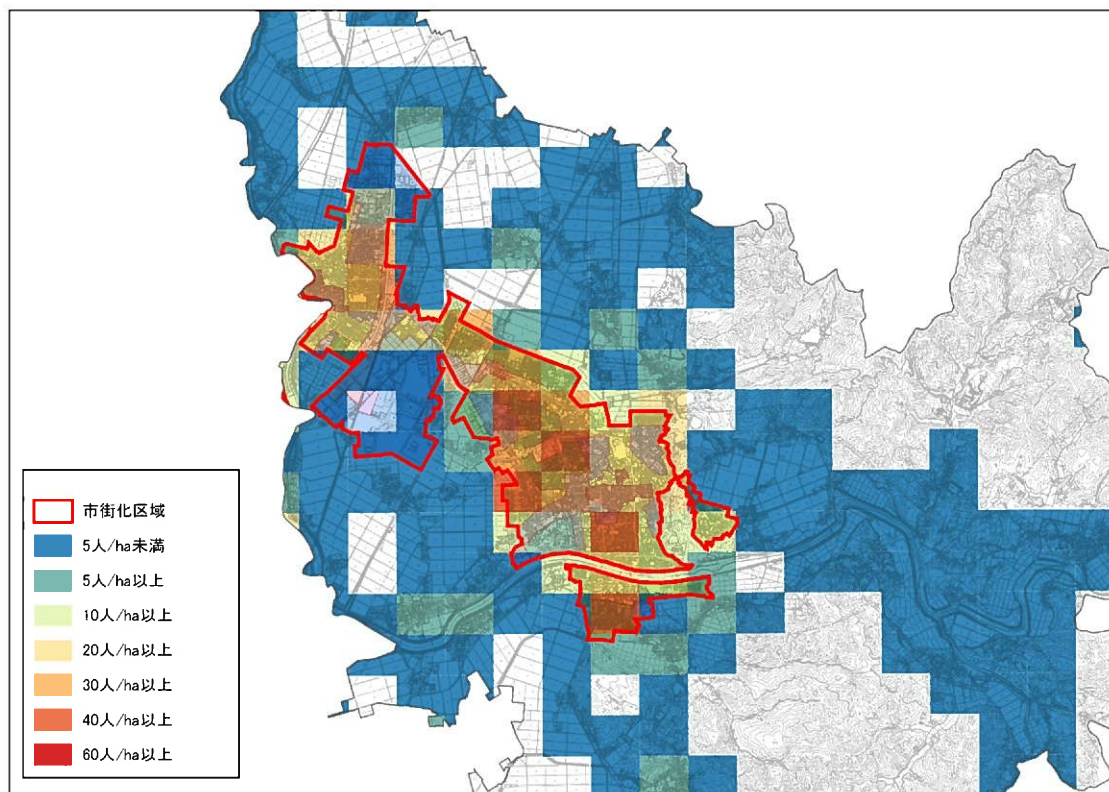
	人口（人）	割合（％）	面積（ha）	割合（％）
市街化区域	29,461	76.7	850	10.9
市街化調整区域	7,920	20.6	5,150	66.1
都市計画区域外	1,027	2.7	1,791	23.0
計	38,408	100	7,791	100

出典：見附市資料（令和 6 年 4 月 1 日現在）

【現況（令和2（2020）年 3.9万人）】



【将来（令和22（2040）年 3.1万人）】

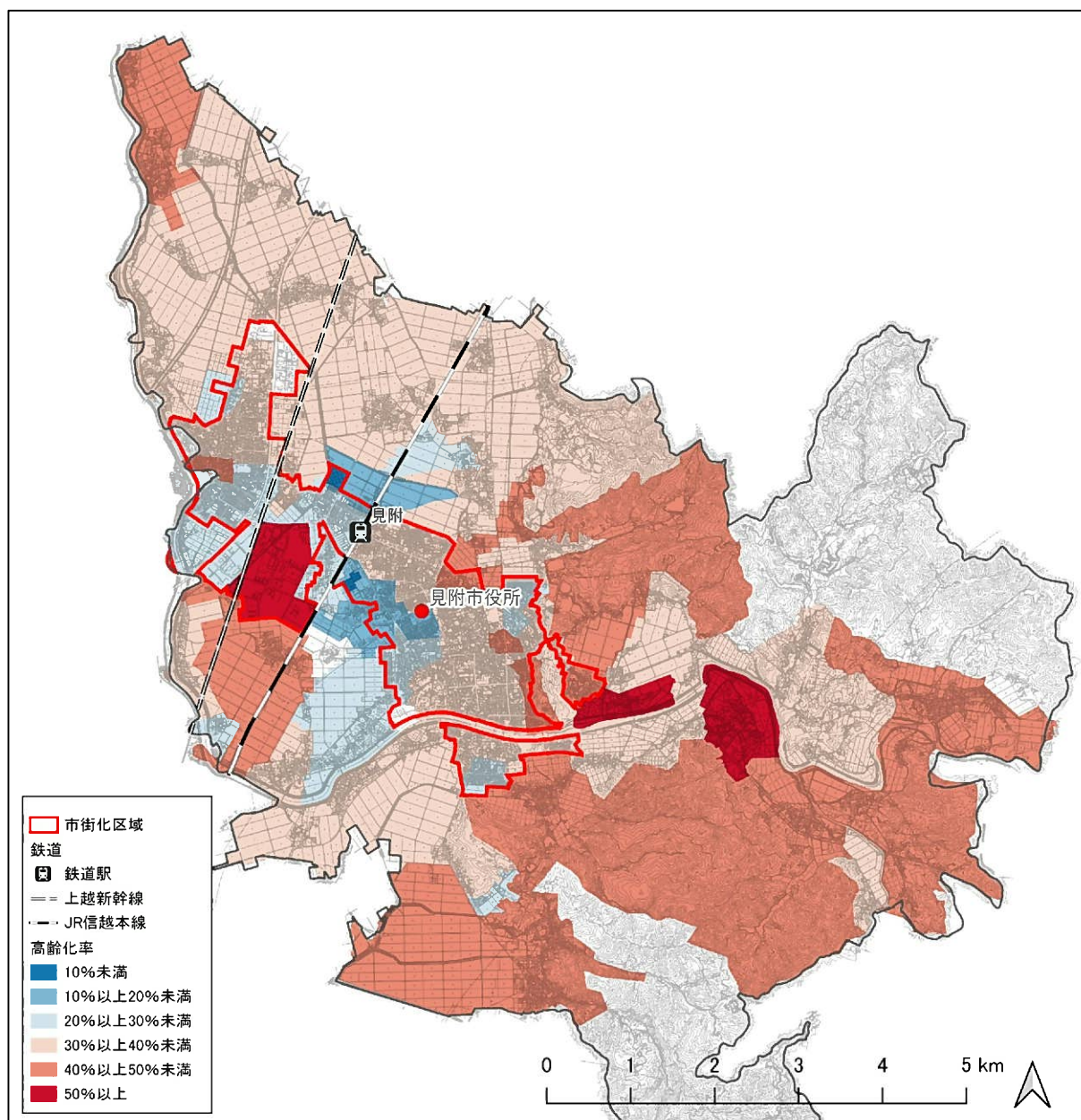


図一居住密度変化の予測（令和2年→令和22年）

出典：R2 国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所

3) 高齢化

令和 2（2020）年時点における地域ごとの高齢化率を見ると、市街化区域内の今町地区周辺や、見附駅周辺、本町地区周辺等の中心部で比較的高く 30%以上となっています。また、市街化区域外の集落部では 40%以上の地域が多く見られます。その一方で、中心部の周辺では高齢化率は比較的低く、特に市役所周辺や見附駅の北西側等は 20%未満となっています。



図一 高齢化率（小地域ごと）

出典：R2 国勢調査

4) 低未利用地

都市計画区域内における空地・空き家等の低未利用地の状況は、空地については平成 25（2013）年から令和 5（2023）年にかけて市街化区域内で若干の減少傾向にあります。

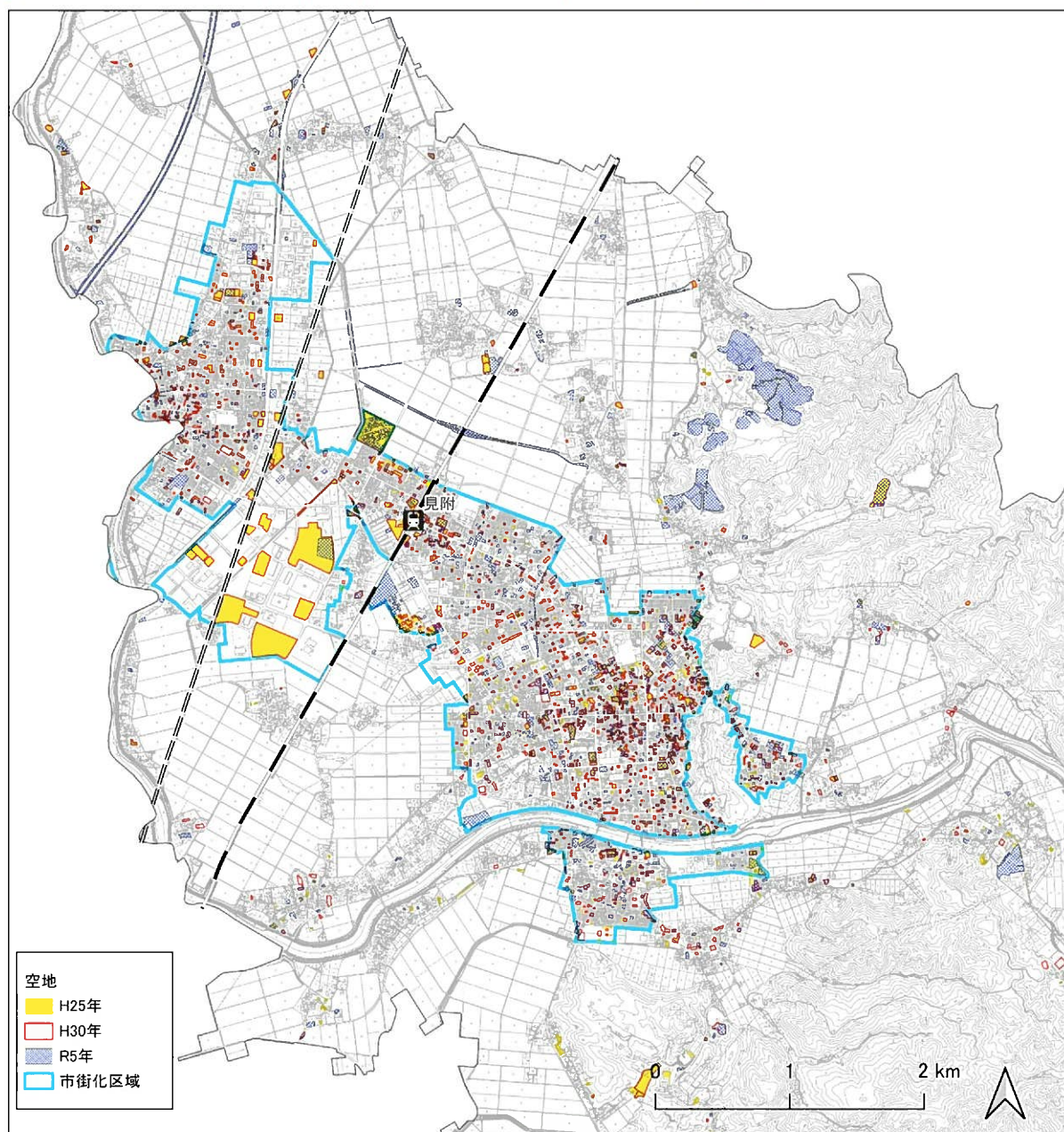
また、空地の分布を見ると、市街化区域内に多く点在しています。

表一空地※¹の状況

	平成 25 年		平成 30 年		令和 5 年	
	空地面積（㎡）	空地率※ ²	空地面積（㎡）	空地率※ ²	空地面積（㎡）	空地率※ ²
都市計画区域	978,415	6.67%	932,585	6.37%	1,159,197	7.41%
市街化区域	771,958	9.88%	773,846	8.47%	563,117	6.91%

※1. 空地は都市計画基礎調査に基づくその他の空き地を対象としている

※2. 「空地率」の算出では、都市計画基礎調査に基づく都市的土地利用を対象としている



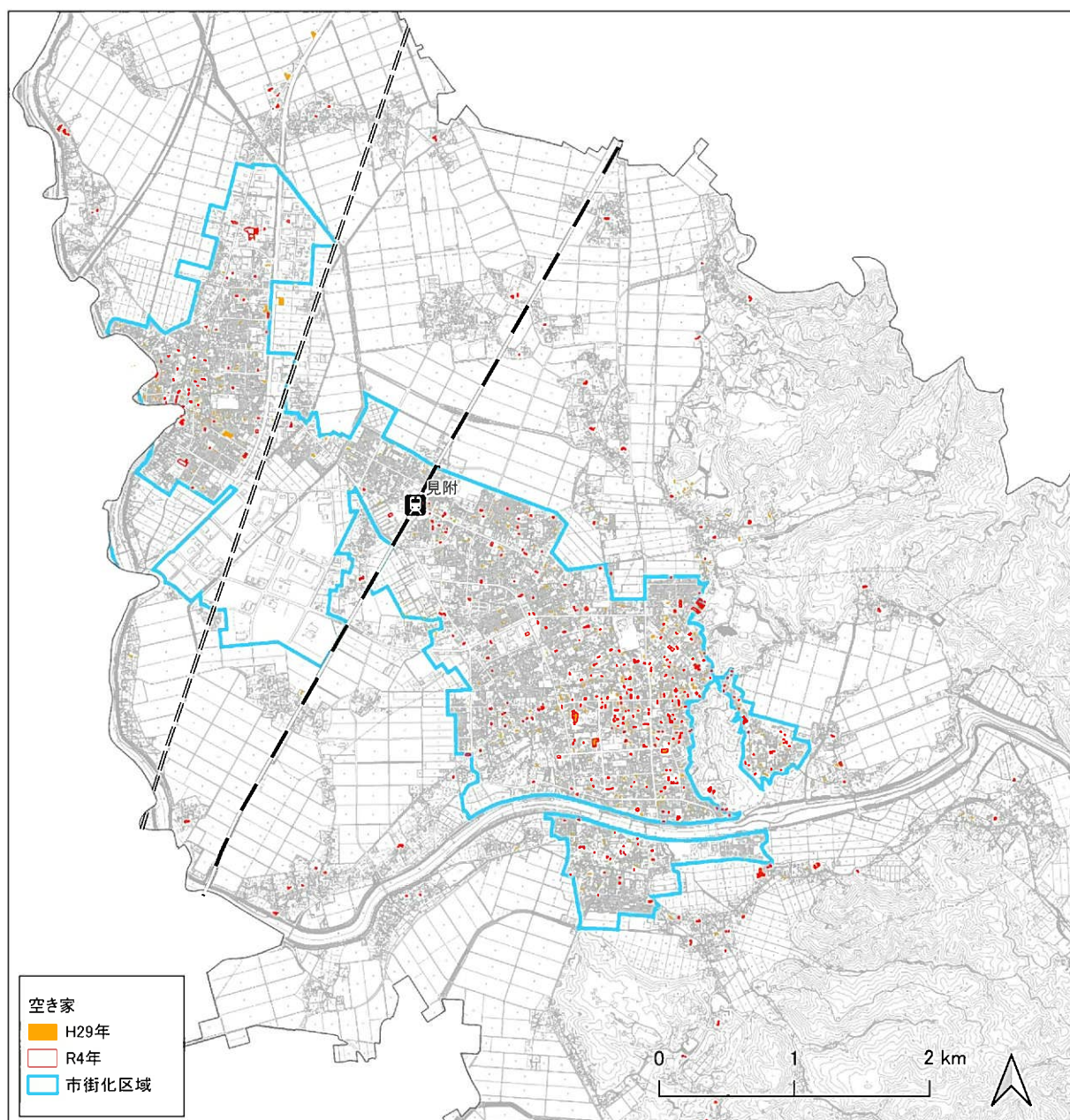
図一空地の分布状況

出典：見附市都市計画基礎調査

空き家の状況は、平成 29（2017）年から令和 4（2022）年にかけて市街化区域内の空き家数は若干増加しています。また、空き家の分布を見ると、市街化区域内に多く点在している中、特に今町地区や見附地区の東部で集中的に分布しています。

表一 空き家の状況

	平成 29 年（市街化区域）		令和 4 年（都市計画区域）	
	空き家数（棟）	空き家率	空き家数（棟）	空き家率
都市計画区域	—	—	741	2.48%
市街化区域	446	2.21%	515	2.49%



図一 空き家の分布状況

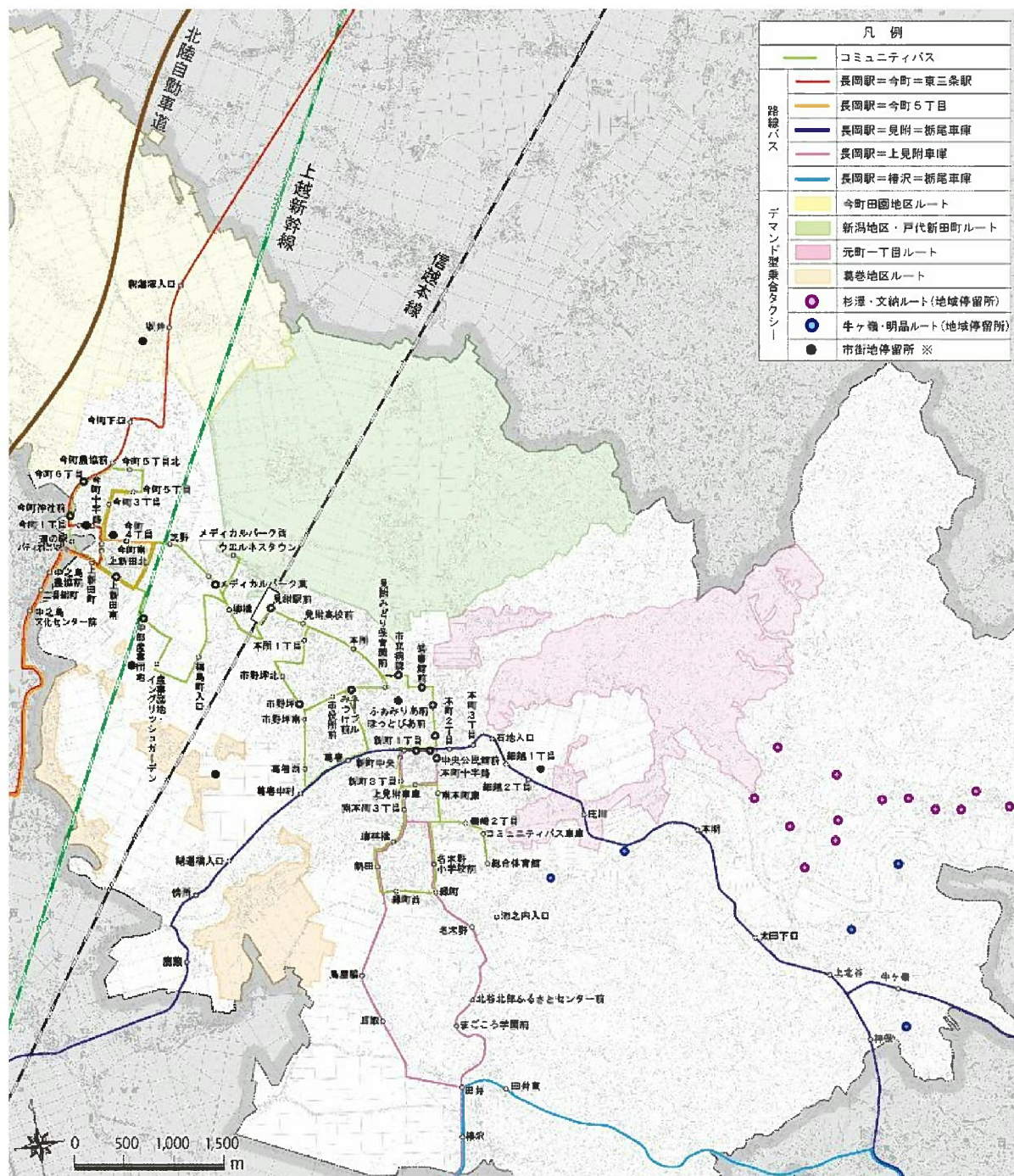
出典：見附市都市計画基礎調査

5) 公共交通

市内の公共交通は、鉄道は信越本線の見附駅が立地しており、バスは市街地と近隣市町村を結ぶように路線バスが運行し、市街地でコミュニティバスが運行しています。そのほか、バス路線がない地域では、デマンド型乗合タクシーを運行しています。

また、これら公共交通の停留所の徒歩圏や、デマンド型乗合タクシーの運行エリアに約90%の人が居住※しています。

※駅からの徒歩圏を800m、バス停留所からの徒歩圏を300mとし、GIS上で算出



図一 見附市の公共交通網 (R5.4時点)

※デマンド型乗合タクシーのルートごとに、利用できる市街地停留所は異なる

出典：見附市地域公共交通計画、見附市資料

(調整用余白)